

茶論「四季おりおり」一冬一 開催報告

「茶論・四季おりおり」では、春・夏・秋・冬を友として暮らす日本人のこころを再発見するために、「聞香」を通して楽しみたいと思います。

「聞香」とは、自然の恵みである“香木”を焚き、その香りに包まれ“森羅万象のこころ”を聞くことをいいます。毎回、テーマを通して、様々なこころを香りに聞いていきます。

4回目の今回のテーマは「春を運ぶ心」。

『文化藝術の会』会員様を中心に、ご参加いただきました。

【開催概要】

■「冬：『春を運ぶ心』」

*清水谷公園の桜に囲まれながら、芭蕉の世界へ。

開催日時： 3月30日（火） 14時から16時

会場： 偕香苑（清水谷公園内）

講師： 伊達晟聴

主催： 財団法人日本文化藝術財団

助成： 日本財団、全日本社会貢献団体機構

後援： 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

参加者数： 10名



偕香苑



晴天に恵まれ、桜も満開に。



本日のテーマについてのお話し。
芭蕉の句「さまごまのことを思ひ出す桜かな」が証歌です。



参加者全員、灰手前の体験。



1種類ずつ、香りを聞いてから本日は六国五味、全ての香りを聞きます。
思い思いに、香りのイメージ、感想を書き留めます。



最後に、6種類の香木の中から、本日のテーマに合う香木を選びました。

桜満開の中での茶論、通常の香席では体験出来ない、灰手前も行ない、和やかに楽しんでいただけました。

※清水谷公園について

公園を入った正面に「贈右大臣大久保公哀悼碑」があります。明治11年（1878）に時の参議兼内務卿の大久保利通がこの付近で暗殺されました。同僚の政府官僚により暗殺地に近いこの地に大久保の業績を称える石碑が建立されました。明治21年（1888）に完成した石碑は、高さ約6mにおよび、表面の碑文は太政大臣三条実美の揮毫によります。

この地は、明治23年（1890）から東京市の公園とされ、現在も都会の喧騒を忘れさせる落ち着いた佇まいをみせています。石碑は、千代田区の文化財に指定されていますが、この他にも園内には麴町大通り拡幅工事の際に出土した玉川上水の石枡が展示してあります。

また、中央入口から見て大久保公追悼碑の左側に池があります。小さな滝もあり、池面に映る周囲の樹木やビル姿とともに見る人にやすらぎを感じさせます。池の左側には、下の写真のような「偕香苑」という茶会などの会合に格好な洒落た建物もあります。

（千代田区観光協会ホームページより）

【参加者のご感想】

- ・初めてのことでしたが、とても良い体験を致しました。そして又、先生のお話がとても楽しく、何も分かりませんが、又、経験したい感じです。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・桜咲く、偕香苑にてお香の美しさをお教え頂き、有難く存じました。またの折、楽しみにしております。